



盛況となった昨年のツーリズム EXPO ジャパン2018の主要シーン

DAY 1

12:30～12:45 開会式 (ハイアットリージェンシー大阪 3階 リージェンシーボールルーム BCD)

12:45～13:30 ジャパン・ツーリズム・アワード表彰式 (同上)

13:30～14:25 基調講演 (同上)

15:45～17:45 第3回TEJ観光大臣会合 (ハイアットリージェンシー大阪 3階 リージェンシーボールルームA)

18:30～20:00 WELCOME RECEPTION (インテックス大阪 インテックスプラザ、スカイプラザ)

〈インテックス大阪 展示場 1～6号館〉

10:00～18:00 インバウンド・観光ビジネス総合展

10:00～18:00 IRゲーミングEXPO2019

11:00～18:00 VISIT JAPANトラベル&MICEマート2019

12:00～18:00 展示商談会

12:30～18:00 ツーリズム・プロフェッショナル・セミナー (5号館 セミナールーム)

15:00～17:00 地域活性化ネットワークングフォーラム (6号館5階 ホールG)

〔主催〕
公益社団法人日本観光振興協会
一般社団法人日本旅行業協会
日本政府観光局
〔特別協力〕
一般社団法人全国旅行業協会
〔特別賛助〕
公益財団法人大阪観光局
〔開催支援〕
TEJ2019大阪・関西 開催地連絡協議会

発行：ツーリズム EXPO ジャパン推進室
発行日：2019年10月24日
編集制作：
株式会社ジャパンライフデザインシステムズ
株式会社 REGION
印刷：小野高速印刷株式会社

大阪・関西で初の 「ツーリズム EXPO ジャパン」開幕

地元による全面的支援で地域の魅力を世界に発信

日本観光振興協会(JTTA)、日本旅行業協会(JATA)、日本政府観光局(JNTO)の3団体主催による「ツーリズム EXPO ジャパン(TEJ) 2019 大阪・関西」が今日、開幕した。

初めて東京を離れて開催される今年のTEJは、6月に「金融・世界経済に関する首脳会合」(G20サミット)が開かれたばかりの大阪・関西を舞台に、2025年大阪万博や海外・訪日合わせて6000万人が行き交う“大交流時代”も見据え、地元財界と自治体、鉄道会社による全面的なサポートも得て“ツーリズムの今”を内外に向けて発信する。

「持続可能な発展の為に、今こそ観光の役割を果たす!」を全体テーマに掲げるフォーラム&セミナーでは、18カ国から観光行政のトップが参加する第3回TEJ観光大臣会合をはじめ、テーマ別シンポジウム、ツーリズム・プロフェッショナル・セミナーなどで、「ツーリズムの今」を内外に発信すると同時に、取り組むべき課題へ

の対応や将来に向けた展望などをめぐり議論を深める。

1500を超える多数のブースが展開される展示会場の展示商談会には、国内の47都道府県と世界100カ国・地域からのサプライヤーと全国の旅行会社プランナー500人が集結し、需要創出や市場開発に向けて熱い商談が繰り広げられる。

海外展示と国内展示でも、多様化する旅行者のニーズに応えるべく、今後の市場拡大が期待される。アドベンチャーツーリズムやクルーズ、食文化・酒蔵ツーリズムや産業観光など、新たな付加価値を生み出すテーマについて、知恵と工夫を凝らした濃厚な情報が発信される。

「TEJ2019 大阪・関西」が開催される地元エリアからも、大阪商工会議所のブースで文具や金属メーカー、建築、ギャラリーなど様々な業種から阪事業者18社の出展や地域の鉄道会社7社による“Railways KANSAI”としての共同

出展など、地域特性を反映した展開を行う。

キーワードである「ウェルネス」分野でも製薬・医療関連企業などが出展。関西の新たな特性をアピールしていく。

また、昨年に続いて「インバウンド・観光ビジネス総合展」が併催されるほか、新たに「IRゲーミングEXPO2019」も同時開催されることから、ツーリズム産業の裾野を広げるフェアinフェアの派生効果も期待される。さらに、JNTOが主催する「VISIT JAPANトラベル&MICEマート」では、国内外の訪日旅行関係団体や企業など約700者が一堂に会し、延べ1万3000件以上の商談が行われる。

内外からの参加者のネットワーキングを図る“WELCOME RECEPTION”では、「だんじり」や「河内音頭」など大阪を象徴するイベントが披露されるほか、「緑日和文化体験」や「お好み焼き・たこ焼き体験」などを通じて、賑わいを盛り上げる。

主催者メッセージ



一般社団法人 日本旅行業協会 (JATA)
会長 田川 博己



公益社団法人 日本観光振興協会
会長 山西 健一郎



日本政府観光局 (JNTO)
理事長 清野 智

新たなビジネスや市場潮流を見出す機会

過去5年間にわたって東京で開催されてきた「ツーリズム EXPO ジャパン (TEJ)」は、6回目を迎える今年、初めて東京を離れて「大阪・関西」で開催されます。出展小間数が想定を上回る規模となり、東京に迫る手応えを感じているところです。

「大阪・関西」という開催地における「TEJ」に対する期待の大きさを示すものであると同時に、「大阪・関西」という地域全体の持つ潜在的なパワーを具現化しています。

そして、何よりも、開催地における“天の時”“地の利”“人の和”が「TEJ2019 大阪・関西」にとって、大きな追い風になっています。

まず、“天の時”は、大阪で開催されたばかりのG20大阪サミットに続いて、注目が高まる一方のラグビーワールドカップが、今まさに大変な盛り上がりを見せており、2025年の大阪万博を世界にアピールする絶好のタイミングです。

“地の利”は、「大阪・関西」をゲートウェイとして、西日本各地や瀬戸内海の自然、歴史、文化などの豊富な観光資源にアクセスできるということです。

さらに、地元の鉄道会社や財界、自治体による多大なるご協力と強力なサポートという“人の和”は、本当に心強い限りです。

ツーリズム産業の広がりも実感

3回目を迎える観光大臣会合には、昨年を上回る18カ国の参加が見込まれています。「人と文化による地域活性化」をめぐる課題などについて、観光関連国際組織の代表なども交えて活発に意見が交わされることとなります。

今年は、特に、6月に開催されたG20大阪サミットの「G20大阪首脳宣言」で、観光を世界経済の成長にとって牽引役とすることなどが盛り込まれ、10月25日と26日には北海道の倶知安町でG20の枠組みでは初めての観光大臣会合も開催されるため、「第3回TEJ観光大臣会合」での議論も注目されています。

また、「商談会」や「セミナー」は、世界各国・地域から旅行のプロフェッショナルが集う貴重なビジネス機会や最新情報を収集する場となります。

さらに、「IRゲーミングEXPO」と「インバウンド・観光ビジネス総合展」というフェアinフェアも併催されるTEJ2019では、ツーリズム産業の裾野の広がりを改めて実感していただけるはずです。

新しいビジネスチャンスや旅行トレンドを見出す場として、「TEJ2019 大阪・関西」を最大限にご活用ください。

現在と将来のトレンドをつかむ場に

「ツーリズム EXPO ジャパン2019 大阪・関西」の開催にあたり、多大なるご支援・ご協力を賜りました大阪・関西の関係者の皆様、そして出展者の皆様に厚く御礼を申し上げます。

回を重ねてツーリズム EXPO ジャパンは、旅行の分野だけに限らず、幅広い産業から多数の参加を得てきているほか、省庁や大学とも連携し、観光に関する総合的な博覧会へと成長してきました。

今年も、地域と産業を共通テーマで結び付けた「産業観光」「酒蔵ツーリズム」「アドベンチャーツーリズム」などの「テーマ別観光」による出展企画や、業界日における各種セミナーなどの開催を通じて、全国各地や地域に関わる産業界全体を強く支援していきたいと考えております。

観光に関わる環境や技術が著しく変化・進歩していく中で、ぜひ、「ツーリズム EXPO ジャパン2019 大阪・関西」の会場で、現在と将来の観光トレンドをつかんで、皆様の業務などに活かしていただければ幸いです。

世界との双方向交流を深めて

一般的な特徴としては、従来のエコツーリズム、ユニバーサルツーリズム、ナイトエンターテインメント、多言語対応のデジタル活用などの取り組みも目立ってきています。

また、日本の多くの地域では交流人口を増やすことの重要性への認識が深まりを見せています。より多くの方に自分たちの地域を知っていただき、お越しいただくためにも、観光コンテンツの発掘や磨き上げ、そして地域を訪れた後の二次交通の拡充は非常に重要です。

さらに訪日旅行も国内旅行も消費者のニーズをさぐり、交流人口の増加にどう結びつけていくかが重要なポイントになってきました。交流人口の拡大に向け、航空路線の誘致が行われていますが、路線を誘致し、維持していくためには、日本へのインバウンド需要だけでなく、海外へのアウトバウンドの需要創出も非常に重要です。

日本全国、そして世界から100カ国・地域の出展者が集結している「ツーリズム EXPO ジャパン2019 大阪・関西」を通じて、消費者の多様なニーズに応える新たな観光素材やテーマを見つけていただくほか、国際会議やレセプションなどを通じて世界の様々な国や地域からいらした皆様との双方向交流を深めていただきたいと考えております。

TEJとVJTMの同時開催で相乗効果を

今年は、「ツーリズム EXPO ジャパン」とともに「VISIT JAPAN トラベル & MICE マート (VJTM)」も初めて大阪・関西で開催されるのに伴い、大阪をはじめとする関西エリアについてもっと知ってもらうため、海外バイヤーとメディアを対象とする「関西視察プログラム」を用意しています。

商談会最終日の午後から約半日、大阪をはじめとする関西の観光地やグルメを体験していただくため、大阪だけを視察する「大阪USJコース」や奈良墨制作体験ができる「奈良生活文化体験コース」、京都の宇治茶道場で日本茶を体験する「京都生活文化体験コース」などバラエティに富んだ内容です。

昨年、国内セラーからの要望が多かった事前アポイントメントの商談時間を6時間40分(最大20枠)から9時間(最大27枠)に拡大すると同時に、商談に参加する国内セラーと海外バイヤーのバランスを改善して、商談アポイントを設定しやすい状況となりました。

また、TEJとVJTMの連携として今年も展示商談会の2日目に、VJTMバイヤーによるTEJ展示ブースの内覧ツアーを実施する一方、TEJ出展者によるVJTMバイヤー向けセミナーも開催します。TEJ展示ブースの内覧ツアーでは、英語対応が可能なブースを募ってバイヤーを案内しており、毎回、好評をいただいています。

観光の最新動向を伝える場としても重要

VJTMでは、初参加者の増加を通じたインバウンドの裾野拡大を重視しており、参加者の規模と多様性から一回の参加で様々な分野の関係者との商談を行える「入門編」とも言うべき役割を果たしています。

また、政府の施策を含めて日本の観光の最新動向を海外のバイヤーとメディアに伝える場としても重要です。

初日に、我が国のインバウンド施策をめぐる状況をはじめ、JNTOの主要な取り組みを海外メディアにブリーフィングするメディアカンファレンスを開催し、来年の東京オリンピック・パラリンピックなどに向けた取り組みへの理解を深めていただきます。

さらに、国立公園の視察やナイトライフ体験など、政府の観光戦略に直結したコンテンツを商談会後の視察旅行の訪問先に盛り込んでいます。

TEJとVJTMの同時開催を通じて、様々な相乗効果が生まれることを期待しており、双方にとってより有意義なイベントとなるように、さらに工夫を凝らしていきたいと考えています。

TEJ2019注目の取り組み

「次のステージ」へ向けて多彩な企画を展開

初開催となる大阪・関西の地域性も前面に打ち出す

初めて東京を離れて開催される「ツーリズムEXPOジャパン(TEJ) 2019 大阪・関西」は、「私の旅は、次のステージへ。／旅が変わる。あなたが変わる。世界最大級 旅の祭典 大阪・関西に初上陸!」をテーマに掲げ、大阪・関西から内外に向けて、日本と世界の「ツーリズムの今」を発信する。フォーラム&セミナー、展示商談会、交流会、顕彰事業の主要4行事を軸に、テーマの訴求と深化を目指す。



主要国の観光行政トップが参集した昨年の観光大臣会合のワンシーン

基調講演は建築家の
安藤忠雄氏が登壇

「持続可能な発展の為に、今こそ観光の役割を果たす!」をメインテーマとして据えるフォーラム&セミナーでは、基調講演に大阪出身で世界的な建築家として知られる安藤忠雄氏が登壇。西日本エリアに「光の教会」(大阪府茨木市)や「地中美術館」(香川県直島町)といった代表作を持ち、ジョンF.ケネディセンター芸術金賞、フランス芸術文化勲章、イタリアの星勲章などでその活躍が海外でも高く評価されている安藤氏が、独自の視点から「心に残る旅」を語る。

国連世界観光機関(UNWTO)とTEJの共催により、今年で3回目を迎えるTEJ観光大臣会合には、昨年を上回る18カ国の観光行政トップの出席が見込まれるほか、UNWTO、世界旅行ツーリズム協議会(WTTC)、太平洋アジア観光協会(PATA)などの国際組織の代表なども参加。TEJ観光大臣会合の今年のテーマである「人と文化による地域活性化」をめぐり、現状での課題や対策、今後の展望について意見を交換する。

第3回TEJ観光大臣会合に
18カ国が出席

特に、今年は、6月に開催されたG20大阪サミットで採択された首脳宣言で、「観光が世界経済の成長の重要な牽引役となる」ことや「各国が持続可能で包摂的な開発などに対する観光分野での貢献を最大化するために取り組んでいく」ことなどが盛り込まれ、10月25日と26日には俱知安町でG20の枠組みでは初めてとなる観光大臣会合も開催されることから、

その直前に行われる第3回TEJ観光大臣会合での議論も注目を集める状況となっている。

UNWTOによると、2018年における国際旅行者数は、世界全体で前年比6%増の14億人に達している。この堅調な伸びは、今後も続くものと予想されており、2030年には18億人まで拡大することが見込まれている。

日本経済の成長戦略セクターとして期待が高まっているツーリズムは、将来にわたって世界経済の屋台骨としての役割を果たすが期待される一方、持続的で調和のとれたグローバル・ツーリズムの為に、国境を越えた更なる連携や相互理解が求められている。

相次いで開催されるTEJ観光大臣会合とG20観光大臣会合は、その道筋をどのように示すことになるのか、内外からの耳目が注がれることになる。

先進事例でツーリズムの
近未来を検証

各分野における専門家や学識経験者などが登壇して、それぞれのテーマについて様々な立場や視点から議論を深めるテーマ別シンポジウムでは、「デジタルマーケティング」「海外旅行」「エンターテインメント」という3つのテーマでセッションが繰り広げられる。

昨年に続いて開催されるデジタルマーケティング・シンポジウムでは、旅行中に観光情報や交通情報を入手するために、アプリをスマートフォンやタブレット端末などにインストールして活用するなど、いわゆる「タビナカ」におけるデジタルの役割が大きくなっている状況を踏まえ、政府観光局やテーマパーク、オンライン旅行サービス事業者などの関係者が意見を交わす。

デジタル分野では、ICTを活用した交通手段のクラウド化によるモビリティのシームレスサービスである“MaaS”の誕生といった新たな動きも出てきていることから、シンポジウムでは、そうした先進事例の紹介なども含めて、ツーリズムの近未来を検証する。

海外旅行とエンタメでも
シンポジウム

海外旅行シンポジウムでは、日本を訪れる外国人旅行者が急増する中で、海外旅行需要の成長も訪日インバウンド需要とリンクするようになってきている状況に着目する。西日本の海外旅行市場でゲートウェイとなっている関西国際空港の代表が基調講演を行い、関空の将来戦略などに言及するのを受けて、供給座席を最大限に活用するために、旅行業界にはどのような知恵と工夫が求められることになるのか、大手旅行会社や航空会社、関西経済連合会の代表らがアウトバウンド市場の拡大や海外旅行需要の創出に向けて将来を展望する。

TEJ2019が開催される大阪・関西エリアにおけるカラーコンテンツの一つともいうべきテーマに焦点を合わせるエンターテインメント・シンポジウムでは、宝塚歌劇団と吉本興業という大阪・関西を代表するエンターテインメント企業の担当者が登壇する。自治体の首長や外国政府観光局の日本代表なども交えて、先行事例や成功事例なども踏まえつつ、エンターテインメントを様々なテーマツーリズムと重ね合わせることで、国内各地における地域観光振興に資するものとする可能性なども見据え

て、地域でエンターテインメントを観光資源として生かしていくための道筋を探る。

展示商談会には
旅行プランナー約500人

「TEJ」では昨年、海外・国内・訪日に分かれていた商談会を一本化すると同時に、商談専用会場ではなく展示会場ですべての商談を実施する「展示商談会」に刷新し、バイヤーとセラーが各出展ブースで商談を行う本格的な「メッセージ」商談会がスタートした。また、商談会参加者個人のプロフィールと商談相手の希望を詳細に登録することができるようにした事前アポイントメント・マッチングの精度も高めた。

日本全国47都道府県と世界100カ国・地域以上のサプライヤーが集結する「TEJ2019 大阪・関西」でも、昨年と同様のスキームで展示商談会が実施され、海外・国内・訪日の旅行商品造成・企画責任者とサプライヤーがアポイント制で商談を行うことになる。

展示商談会では、5500を超えるセッションが予定されており、全国の旅行会社から国内・海外旅行のプランナー約500人が商談に臨む。

新たに「IRゲーミング
EXPO2019」も併催

「TEJ」における近年の傾向として、旅行業界やツーリズム産業の関係者だけにとどまらず、自動車、通信、不動産、流通、教育、金融など幅広い業種の関係者が参加して、観光への関心の高まりや観光の裾野の広がりを示している。

今年は、「TEJ」のフェアinフェアとして、昨年に続いて「インバウンド・観光ビジネス総合展」が併催されるほか、新たに「IRゲーミングEXPO2019」も同時開催される。

日本でも昨年、特定複合観光施設区域整備法(IR実施法)が成立して、IR市場が誕生する見通しとなった。

IR誘致を目指す大阪・関西で「TEJ」が初めて開催される今年、ツーリズム産業の事業者とIR事業者が一堂に会する「IRゲーミング

TEJ観光大臣会合モデレーターに聞く



地球規模での開発へ
極めて重大なツーリズム

アニータ・メンディラッタ&アソシエイツ 創設者兼代表取締役社長
UNWTO 事務局長スペシャルアドバイザー

アニータ・メンディラッタ氏

トラベル&ツーリズムは、私たちの生活にとって貴重で必要不可欠なものです。世界中で毎日、1200万人が航空機を利用して、新たな場所や見知らぬ人々を訪れたり、様々な可能性を見出し、それぞれの生活を力強いものにしていきます。さらに、より重要なことは、全世界の10人に1人に雇用機会をもたらしているセクターとして、その未来も、また、揺るぎないという事実です。

「持続可能な開発目標(SDGs)」の17を数えるゴール達成に向けて直接的な役割を果たすツーリズムは、地球規模での開発にとっても重大な存在と認識されています。世界各国の指導者は、ツーリズムの発展が経済的・社会的・文化的・環境的に持続可能な形で進み、そのパワーが永続するよう担保しなければなりません。

UNWTOとの共催による第3回TEJ観光大臣会合では、18カ国の観光行政トップや観光関連国際機関の代表などが「人と文化による地域活性化」をテーマに、すべての国々、特に、各国の地域共同体へ恩恵がもたらされるよう、ツーリズムの成長トレンドをマネジメントするアプローチをめぐる議論を深めます。

TEJ観光大臣会合のモデレーターとして、今年も「ツーリズムEXPOジャパン」に参画できることは、私自身、この上もない栄誉です。極めて重要でハイレベルな対話を実り多いものにできるよう力を注ぎたいと考えています。

TEJ2019注目の取り組み

EXPO2019」では、IRオペレーター、IR導入を検討する地方自治体、IR関連ビジネスへの参入を検討している各企業団体と旅行会社やツーリズム関連事業者とのマッチングビジネス商談も予定されているほか、一般来場者に向けてもIRへの理解促進を図る。

「インバウンド・観光ビジネス総合展」とともに、ツーリズム産業の裾野をさらに広げるフェア in フェアの派生効果も大いに期待される。

新たな付加価値生み出す
テーマに注目

海外部門の展示では、昨年に続いてデステーション別を中心とする従来の展示に加えて、「クルーズ」などとともに「アドベンチャー」のテーマ別のコーナーが設定される。

世界的に急速な進展を示しているアドベンチャーツーリズムは、欧州・北米・南米における市場規模が約4500億ドル(約49兆円)にまで拡大しており、2012年から2017年までの6年間における年間平均成長率も11.4%と2ケタ成長を示した。

日本では発展途上の旅行スタイルと言えるアドベンチャーツーリズムだが、近年のモノからコトへという旅行需要のシフトを反映して、旅行者の間で「自然」や「アクティビティ」「異文化体験」が組み込まれたアドベンチャーの魅力に対する関心も高まってきており、新たな付加価値を生み出すテーマとして注目される。



高付加価値型テーマとして期待されるアドベンチャーツーリズム



©OCVB 工場の夜景見学など産業観光の魅力は多彩

地域における
将来の旅行需要創出へ

国内部門の展示でも、昨年注目を集めたテーマである「酒蔵ツーリズム」が「食文化・酒蔵ツーリズムエリア」としてパワーアップし、「食と酒を巡る旅」をテーマにブース展開する。

地域ならではの食や食文化を活かした取り組みを通じて、地域への誘客を図るとともに、食文化・酒蔵ツーリズムによる地域振興を目指す各自治体や団体などが、それぞれの魅力をアピール。「食文化・酒蔵ツーリズムエリア」のブースでは、地元の歴史や自然、風土が育んだ地域の魅力を味わう「食と酒を巡る旅」の神髄を体験することができる。

また、「五感を魅了する社会科見学〜文化・産業の小径」と銘打った「産業観光エリア」で

は、自治体や観光関連団体、企業などの団体が出展し、工場夜景をはじめ多彩な「産業観光」の魅力を紹介する。地域に固有の産業に関わる工場や職人、製品などに加えて、かつての工場跡や産業遺構などを対象とする産業観光は、テーマ探求型の旅行商品への人気が高まるトレンドにも合致しており、地域における将来の旅行需要創出へカギを握る「ツーリズムの新しいカタチ」として役割を担うことになりそうだ。

オール関西で
強烈に魅力をアピール

「TEJ2019 大阪・関西」が開催される地元エリアからも、大阪商工会議所のブースで在阪事業者18社が出展するほか、在阪の鉄道会

社7社が“Railways KANSAI”として共同出展するなど、地域特性を反映した展開を行う。

大阪商工会議所のブースでは、文房具や金属などの各種メーカー、建築デザイン事業者、ギャラリーなど、幅広い産業の事業者が出展。大阪・関西での開催のキーワードである「ウェルネス」分野でも、在阪の製薬会社と医療機器メーカーが出展を計画しており、大阪における産業の間口の広さや奥行きを打ち出す。

「関西をつなぐ鉄道ネットワーク」をサブテーマに掲げ、JR西日本・大阪メトロ・阪急電鉄・阪神電車・近畿日本鉄道・京阪電車・南海電鉄の7社が手を携える“Railways KANSAI”では、関西観光本部との連携により各自治体と合同のデジタルスタンプラリーも実施することになっており、オール関西で地域の魅力を強烈にアピールする。



テーマ別シンポジウム：講師・モデレーターに聞く4つの論点



■海外旅行シンポジウム

インバウンド4000万人時代の海外旅行市場はどんな～関空の強みを活かして新たな商機を～

●基調講演

関西エアポート株式会社
代表取締役社長 CEO

山谷 佳之氏

増加を続ける訪日インバウンドの影響などもあり、関西エアポートグループが運営する関西三空港（関西国際空港、大阪国際空港、神戸空港）もここ数年順調に旅客数を伸ばしている。

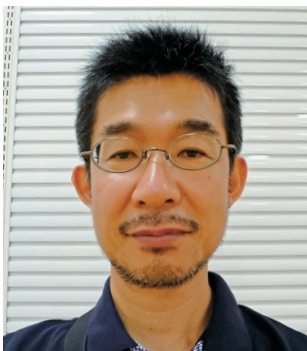
特に関西国際空港は今年開港から25周年を迎え、国際線を中心に旅客数を伸ばし過去最高の旅客数を更新し続けている。

今回、関西三空港の運営概況や取り巻く環境をはじめ、関西国際空港のLCC/FSCの就航状況や、関西と首都圏（成田国際空港・東京国際空港）の状況を比較しながらアウトバウンド/インバウンド（ツーウェイツーリズム）の現状等について紹介する。

後半では、空港を運営する会社の視点から、昨年の台風21号の災害対策（新BCP）や利便性を高めるために技術革新を取り入れた関西エアポートの取り組み事例にも触れながら、アウトバウンド/インバウンド旅行者の「安全性」「旅行スタイルの変化」などの多面的な要素から旅行代理店（旅行販売）に対する期待と海外旅行の今後について考察していく。

●モデレーター

Two Way Tourismを関西海外旅行市場の新たな起爆剤に

株式会社 JTB 総合研究所 研究理事
黒須 宏志氏

2019年、過去最高の旅行者数を大きく更新した海外旅行市場は欧州を含む多方面で元気がある。インバウンドの盛り上がりで関西空港の国際線便数は2000年の倍以上に拡大しており、その恩恵は間違いなくアウトバウンドにも波及している。

訪日需要は今後まだ成長を続けるだろう。そして訪日客を引きつける関西の魅力は将来的には東京すら凌駕していく可能性がある。

来るべきインバウンド4000万人時代、訪日需要の成長を見越したアウトバウンドの方面開発や、逆にアウトバウンドをテコにした訪日誘客の戦略を持ち、Two Way Tourismをリードすることで生き残っていくにはどうすればよいのか。

海外旅行シンポジウムでは関西エアポートの山谷佳之社長の基調講演に続いて、関西経済連合会国際部長の井上剛志氏、フィンエアー日本支社長の永原範昭氏、JTB 海外仕入商品事業部長の遠藤修一氏をお迎えして、幅広い視点から今後求められる海外旅行市場戦略を議論する。

■デジタルマーケティング・シンポジウム

観光デジタルマーケティング：活用事例から考える今と未来

トラベルボイス株式会社
代表取締役社長 CEO

鶴本 浩司氏

旅行のなかにデジタルを活用する「旅行×デジタル」は、加速度的に進化を遂げている。

旅行者のほとんどがスマートフォンというデジタルデバイスを常時携帯するのが当たり前になったいま、旅行中のいわゆる「タビナカ」でのデジタルの活用シーンは多方面にわたり、しかも新たなテクノロジーも加わり、異次元の展開に向かおうとしている。

例えばテーマパークでのデジタルによる利便性の高度化や課題解決も生まれ、宿泊施設や各種事業体では、AI（人工知能）が、人間を超えた最適なアドバイスを行うチャットボットも実用化されてきている。

さらに、これまでは欧米がリードしてきた旅行×デジタルの世界観が、ここにきてアジア発で世界をリードする、

という場面も現れてきた。

いま「旅行×デジタル」はどのようなトレンドになっているのか、そして未来にはどのようなことが起きるのか、世界の先進事例も紹介しながら、未来を垣間見ることができるセッションにしていきたい。

■エンターテインメント・シンポジウム

エンターテインメントで地域を元気に！



松本大学 名誉教授

佐藤 博康氏

エンターテインメントには実に多様なコンテンツが含まれます。また、それゆえ、地域においては必ずながしのかのエンターテインメント素材が存在し、その利活用が地域を元気にする源と繋がっています。また、これまでの観光資源では受け身の箱物やコトが中心でした。これからの観光のあり方は、より積極的なアクティブな要素が求められているように思います。

そのような旅行者の興味が変化する中で、本シンポジウムではエンターテインメント素材を地域の活性化にどのように生かしたら良いかを、メジャーなコンテンツプレイヤーからうかがって身の丈に合った地域づくりを考えてみたいと思います。

また、韓流ブームを手がけつつ、昨今ではナイトツーリズムなど新たなエンターテインメントツーリズムを展開されている韓国の事例も紹介いただいて、我が国のインバウンド観光振興のためのヒントを見つけてみたいと考えています。

今回、歴史的にも、また文化的にもエンターテインメントの発祥の地とも考えられる関西において、テーマの一つとして取り上げられることはこれから地域づくりのための素材を検討されておられる地域の皆さんにとって大変興味深いものになるものと思います。

シリーズコラム／Sustainable Tourism Action①

「持続可能な観光先進国」に続く道筋を示そう

観光庁は、今年6月10日に開催した「持続可能な観光推進本部」の会合で、「持続可能な観光先進国に向けて」を取りまとめて公表した。

訪日外国人旅行者の急速な増加などによって、一部の観光地で地域住民と訪問する旅行者の間で、混雑やマナー違反などへの関心が高まってきているのに伴い、いわゆる「オーバーツーリズム」に関わる報道も見られるようになってきている。

観光庁では昨年6月、こうした状況を踏まえて、庁内に「持続可能な観光推進本部」を新設し、自治体へのアンケート調査などにより、内外の先進事例を整理すると同時に、同庁としての今後の取り組みの方向性を検討してきた。

主要な観光地の中には、訪問する旅行者の増加に関連する問題が発生しているケースも出てきており、そうした観光地を抱える自治体も、混雑やマナー違反に関わる個別課題を強く意識し始めてきている。観光庁では、混雑やマナー違反といった問題に関わるモデル事業などを実施し、内外の先行事例も含めて、参考となる取り組みを全国に広げていく方針だ。

「攻めの機会」として捉える

観光庁はさらに、現状把握の結果に基づいて、各自治体や観光地域づくり法人(DMO)が持続可能な観光地経営を行えるよう、国際基準に準拠する「持続可能な観光指標」の開発・普及も図る考えだという。

また、持続可能な観光の実現に向けた取り組みは、観光がもたらしうるネガティブな影響に対する「受け身の姿勢での個別対策」と理解されがちであることから、観光庁は、近年のオーバーツーリズムなどへの関心の高まりを、自治体やDMOなどが観光地マネジメントに本格的に取り組む「攻めの機会」と捉えることにも期待。観光庁として、自治体やDMOによる積極的な取り組みを「全力で支援」していく決意も表明している。

観光庁も指摘しているように、観光が主要な産業となっている各国と比較した場合、また、国内では「オーバーツーリズム」が広く発生する状況には至ってはいない。長期的な視点に立って、「オーバーツーリズム」への対応を準備することが重要であることは言うまでもないが、その一方で、現状での深刻な問題や喫緊の課題に対する解決の道筋を探るために「持続可能性」や「サステナブル」というアプローチを究めていくべきだろう。

サステナブルツーリズムの果たす役割

「持続可能な観光＝サステナブルツーリズム」には、「マスツーリズム」の対立概念的な意味合いも含まれる。地域の自然環境や風土・文化などに配慮して、観光地の住民と旅行者の双方が恩恵を享受しながら、地域の自然環境や風土・文化などを維持・保全する概念と一般的には理解されているようだ。特に、観光振興を通じた経済発展を目指す途上国では、そうした理解をベースに「サステナブルツーリズム」を追求する動きが進められている。

しかし、欧米各国や日本などの先進国においては、人口減少や少子高齢化による市場規模の縮小や経済成長の減速という事態が進む中で、「サステナブルツーリズム」は有効な対策の一つとしても位置づけられる。特に、中山間地域などで限界集落問題も深刻化する日本では、地域そのものの持続可能性を下支えする「サステナブルツーリズム」の果たす役割への期待は小さくない。



オーバーツーリズム対策には、長期視点の準備が求められる

“ジャパンモデル”を世界に示す時

2004年1月、当時の小泉純一郎総理大臣は施政方針演説で「『住んでよし、訪れてよしの国づくり』を実現するため」「『観光立国』を積極的に推進します」と謳い上げた。

21世紀も5分の1が過ぎようとしている今、観光庁も指摘するように「受け身の個別対策」ではなく「攻めの機会」を支える考え方として「サステナブルツーリズム」が機能し、問題や課題への対策だけにとどまらず、先進国における新たな成長・発展へのダイナミズムを生み出す概念として、自立的かつ自律的なムーブメントをもたらすことも期待されるようになってきている。

持続可能な観光地経営を行えるよう国際基準に準拠した「持続可能な観光指標」の開発・普及を図ると同時に、「サステナブルツーリズム」の新たな道筋や可能性を“ジャパンモデル”とも言うべき形で世界に示すことも、「観光先進国」を目指す日本の矜持あるいは気概として、官民を問わずツーリズム関係者の全てが共有すべき時代を迎えているようだ。

観光ビジネスに関わる情報と関係者が集結する総合観光イベント

ツーリズム EXPO ジャパン 2020 沖縄リゾート展 出展のご案内

2020年 10/29(木) - 11/1(日)

会場 沖縄コンベンションセンターならびに周辺施設
来場者数 36,000人(業界・プレス:1,000人、一般35,000人)
主催 公益社団法人日本観光振興協会(JTTA)、一般社団法人日本旅行業協会(JATA)、日本政府観光局(JNTO)

初の沖縄開催決定!!

ツーリズムEXPOジャパン2020沖縄は、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会で世界の注目が日本に集まるなか、世界・日本のリゾートが沖縄に集結します。



沖縄開催の事業構成

展示商談会 + フォーラム & セミナー + 顕彰事業 + 交流会

VISIT JAPAN Travel Mart 2020 -EAST ASIA- (予定)
主催: 日本政府観光局 (JNTO)

沖縄開催のポイント

- 海洋リゾート、アドベンチャー、エコなど、開催地ならではの観光テーマで展示商談、フォーラムを実施
- 商談はマッチングシステムで、効率良く効果が実感できる従来型商談
- 旅行意欲が高い一般消費者3万5000人へダイレクトアプローチ

TEJ東京商談会

特別企画

関東を中心に日本全国の海外、国内、訪日の旅行商品造成企画担当者400名と直接商談ができる唯一の展示商談会です。

2020年9/10(木) - 9/12(土)
【会場】東京ビッグサイト 青海展示場 ホールA・B

バイヤー
● 商談会バイヤー数: 200名(内訳: 海外バイヤー100名 / 国内・訪日バイヤー100名)
● 商談会対象バイヤー: 日本全国の国内、海外、訪日旅行の商品造成担当者

プログラム
展示商談会: 2日間のマッチングシステムによるアポイント制、最大16セッション
展示会: 2日間の消費者向け展示会、来場者数20,000名を予定

ツーリズムEXPOジャパン推進室 [ホームページ] <https://t-expo.jp> [E-mail] event@t-expo.jp [電話] 03-5510-2004 [Fax] 03-5510-2012